

平成19年 梅栽培暦

J A 紀 南
西牟婁振興局農業振興課監修
平成18年12月作成

農業中毒の相談は日本中毒情報センター(大阪)TEL072-727-2499(24時間待機)

月	小梅・古城・南高(青果用)					南高(漬け梅用)					重点作業	
	防 除			使用基準		防 除			使用基準			
	病害虫名	薬剤名	倍数	収穫前日数	使用回数	病害虫名	薬剤名	倍数	収穫前日数	使用回数		
1	上	アブラムシ類(花枝病)	モスピラン(酒)	4000倍	7日前	2回以内	アブラムシ類(花枝病)	モスピラン(酒)	4000倍	7日前	2回以内	1 かいよう病対策 防風ネット・防風垣 2 開花期 結実不安対策 交配樹の選種・核抜き 交配用の核さし ミツバチの放飼 3 発芽期 落葉病対策 防霜ファン 4 新梢伸長期 灌水 晴天が7~10日続いた場合 葉二枚の予防(2~3回散布) ヨーヒ85(800倍)又は プラムエース(800倍)又は ボロン液(800倍) カメムシ捕虫灯の設置 芽かき、せん枝 5 花芽分化期 高麗紅づくり びつり支柱を行い 日光をあてる 6 休眠期 徒長枝の間引き 剪定 7 休眠期 土壤検査 現土壌の化学性 P H:6.0~7.0 腐植:3%以上 りん酸:100mg以上 石灰:250mg以上 窒素:35mg以上 亜鉛:15mg以上 物理性の改善 排水対策 8 休眠期 授精作物の播種 ヘアリーベッチ3~4kg/10a ナギナタガヤ2~3kg/10a ※ナギナタガヤは3月に施肥 9 休眠期 剪枝・剪定 主枝は2~3本とする 古枝の間引きの徹底 露樹防樹はややく 切り返す
2	下	開花期中防除厳禁					開花期中防除厳禁					
3	上	灰色かび病(落葉病)(小梅)	ロブール(水)	1500倍	45日前	2回以内	灰色かび病	ロブール(水)	1500倍	45日前	2回以内	
3	中	かいよう病	Zボルドー (がく落ちまで) 又は ICボルドー-66D (がく落ちまで)	500倍 50倍	観葉期	-	かいよう病	Zボルドー (がく落ちまで) 又は ICボルドー-66D (がく落ちまで)	500倍 50倍	観葉期	-	
3	下	アブラムシ類	モスピラン(酒) 又は マブリック(水)20	4000倍 4000倍	7日前 21日前	2回以内	アブラムシ類	モスピラン(酒) 又は マブリック(水)20	4000倍 4000倍	7日前 21日前	2回以内	
4	上	黒星病	ベルコート(水)	2000倍	30日前	3回以内	黒星病	ベルコート(水)	2000倍	30日前	3回以内	
4	中	かいよう病	マイコシールド	1500倍	21日前	4回以内	かいよう病	マイコシールド	1500倍	21日前	4回以内	
4	下	黒星病	バイオカル(水) 又は オーシャイン(水)	2000倍 3000倍	21日前 前日	2回以内 3回以内	黒星病	バイオカル(水) 又は オーシャイン(水)	2000倍 3000倍	21日前 前日	2回以内 3回以内	
4	下	かいよう病(南高)	スコア顆粒(水)	3000倍	7日前	3回以内	かいよう病	スコア顆粒(水)	3000倍	7日前	3回以内	
4	下	コスカシバ(雄成虫)	マイコシールド スカシバコン	1500倍 1500倍	21日前 前日	4回以内 -	かいよう病 ハダニ類(多発時) コスカシバ(雄成虫)	マイコシールド スカシバコン	1500倍 1500倍	21日前 前日	4回以内 -	
5	上	黒星病(南高)	ストビドドライブアル 又は オーシャイン(水)	2000倍 3000倍	7日前 前日	3回以内 3回以内	黒星病 すす斑症	ストビドドライブアル 又は オーシャイン(水)	2000倍 3000倍	7日前 前日	3回以内 3回以内	
5	下						すす斑症	オーシャイン(水)	3000倍	前日	3回以内	
6							アカマダラケシイ	バリアード顆粒(水) 又は フォース顆粒	4000倍 10kg/10a	前日 3日前	2回以内 1回	
7	上	環紋葉枯病	トップジンM(水)	1500倍	21日前	3回以内	同様の防除を行う					
8		ハマキムシ類	スミチオン(乳)	1000倍	14日前	2回以内	同様の防除を行う					
9	上	ウメシロカイガラムシ (若齢幼虫)	スプラサイド(乳)40 又は アロードフロアブル	1500倍 1000倍	14日前 45日前	2回以内	同様の防除を行う					
10		コスカシバ(多発期)	ガトラー(乳)(注用剤)	50倍	休眠期	2回以内	同様の防除を行う					
10~11		かいよう病多発期	ICボルドー-66D (高温時には減らす ことがある)	50倍	葉芽発芽 前まで	-	同様の防除を行う					
12	上	カイガラムシ類	石灰硫黄合剤 (石灰硫黄合剤に強い 品種には散布しない)	10~15倍	発芽前	-	同様の防除を行う					

(白紋羽病防除)
フロンサイドFSC(フロアブル)
【使用方法】
・噴霧機
樹幹から半径1m程度の
範囲に霧状噴霧機を用いて樹
幹の周りに霧状に500
倍液を1樹当たり50~
100L噴霧する。
・中絶以上
樹幹から半径1m程度の
範囲を振りあげて、病斑を除去した後、500倍液を1樹当たり
50~100L噴霧する。
※使用時期……収穫後から開花前まで
(ただし、収穫60日前まで)
※使用回数……1回(フロンサイド水和剤も含めて)

雑草防除

品目名	適用雑草名	使用時期	10a当り使用量 (粉剤水量)	使用回数
バスタ液剤	畑地1年生雑草	雑草生初期(草丈30cm以下) ただし、収穫前日まで	300~500mg (100~150g)	3回以内
	畑地多年生雑草	雑草生初期(草丈30cm以下) ただし、収穫前日まで	500~1000mg (100~150g)	
ハービー液剤	畑地1年生雑草	雑草生初期(草丈30cm以下) ただし、収穫前日まで	500~750mg (100~150g)	3回以内
	畑地多年生雑草	雑草生初期(草丈30cm以下) ただし、収穫前日まで	750~1000mg (100~150g)	
サンダーボルト007	1年生雑草及び 多年生雑草	雑草生初期(草丈30cm以下) ただし、収穫7日前まで	400~600mg (100g)	3回以内

防除の注意点

- 隣接園、早期収穫品種への飛散に注意
- ドリフト対策として、防風垣・防風ネットの整備を行う
- 南高園で小梅・古城が入っている場合は小梅・古城に合わせた防除とする
- 防除器具の洗浄を行う
- 生産履歴の記載は収穫後より始めます

省力型施肥例

(十分な有機質の投入による土づくりを行った上で使用する。)

施肥標準(10a当り)	実肥(4月)	実肥(5月)	礼肥(収穫前後)	9月	土づくり(10~12月)	元肥(11月)
古城	FTE入り 有機化成S860 (8-6-10) 40kg	ホウ素入り 有機肥408 (14-10-8) 60~80kg	FTE入り 粒状骨すも配合 (7-6-7) 100~160kg	なたね粕 300kg	(基肥設計) パーク堆肥 2~4t 苦土石灰 140kg BMようりん 60kg FTE 6kg	FTE入り 粒状骨すも配合 (7-6-7) 80kg
南高・小梅	FTE入り 有機化成S860 (8-6-10) 60kg	又は アラジン403 (14-10-13) 60~80kg	又は 有機化成特A805 (10-6-7) 80~120kg	又は ケイフン 500kg	有機質:ゴールド有機200kg ハイミナ有機A200kg 腐葉:アズミン200kg リン酸:リンスタ-60kg 石灰:セルカ160kg 又は 苦土セルカ2月160kg	

礼肥省力型		
4月	らくらく配合肥(FTE入り) (12-6-8) ・次の施肥は9月より戻す。	160kg
年間一回型①		
12月	梅一発(180g) (14-12-14)	200kg
3月	・結果量の多い樹は4月~5月に調整のための実肥を戻す。	
年間一回型②		
3月	梅ロング698 (16-9-8)	160~180kg
4月上旬	・苗木には使用しない。	

●若木園、樹勢旺盛園で結果不安定園では施肥量を減らす。